

退校まで賭して運動会前日まで続いた。このままでは教師・生徒双方共に傷つくことになりかねなかったが、運動会当日不幸なことに百足競争で重傷事故が発生し、必然中止となった。だが、ファイアーストーム事件」と言うなかれ。後に太田進（数学）先生は「学校行事より見た岡山朝日高校の形成」『朝日高校教育史資料第五集』の中に「昭和31年入学生のカリキュラムには特殊事情（前記）があり、これが生徒の不平等感をたかめ、ひいてはファイアーストーム事件・壁新聞事件（無断で壁新聞を張り出したとして生徒4名を停学処分（昭和35年）」を生む土壌を作った。（中略）伊藤省吾先生の言うように、朝日校の生徒会はファイアーストームより始まり、それと共に歩んできたのである。」と書き残しておられる。このように生徒もだが、先生も同じく苦悩したのである。が、返す返すも残念なことは、学校当局が平田克二さん達の悲痛な叫びを軽視し、その真情を真剣に取り上げなかったことであり、更に惜しむらくは、平田さんは卒業後まもなくして亡くなられたことである。

わが黄金の日々

仮装行列の華やかなりし頃

昭和50年卒 永野 公之

「田中内閣すでに政権末期的症状、四野党党首が退陣要求」「全国に広がる公害問題」「ドル暴落、1ドル254円に」「中核派学生内ゲバで8人重軽傷、警視庁30人を逮捕」昭和48年夏の主な新聞記事のタイトルである。人々は今日を生きているのに一生懸命に生きており、一途に明日の幸せを信じて夢見て疑わなかったのである。あの高度経済成長期真っ只中の頃へ今一度タイムスリップしてみたいと願うのは果たして私だけであろうか？わが母校の運動会へ34年ぶりに戻ってみようと思う。以下は私の日記からである。

「さすがに朝日高校、100m走、障害物リレー、1500m走、対部リレー、淡々とプログラムは進む。誰が速かろうがどのクラスが勝とうが皆特別に興味は示さない。まるで盛り上がりがない運動会が昼食後の護国神社往復マラソンが終わってから一挙にクライマックスを迎えようとしていた。いよいよ朝日高校恒例の仮装行列とそれに続くファイアーストームなのである。今年のが2年B組の出し物のテーマは『宇宙いくさ』であった。運動会の1週間ほど前からクラス全員で出し物の製作に取り掛かるのである。男の子も女の子も、秀才も落ちこぼれも、軟派も硬派も、みんな一緒にクラス全員でひとつの目標に向かって一致団結協力し合うのである。

学校の裏山から青竹を切り出してくる者、何処からか段ボールや角材を調達してくる者、出し物に絵を描く者、またある者は何もしいないが大声を発しクラスメートを鼓舞している。各々が得意分野を担い絶妙のチームワークが存在している。運動会前日、ついにわがクラスの出し物は完成した。戦車のような戦艦のような装甲車のようなUFOである、緑色に着色したため宇宙空間で大暴れる緑亀怪獣つてとこかな？全校生徒と先生たちの歓声と嘲笑の中、級友たちは胸を張って行進し、大いに盛り上がりながら仮装行列は幕を閉じる。さていよいよファイアーストームである。クラス全員で汗を流し、日数を費やして作った出し物を運動会終了後、一瞬にして灰燼に帰させるその瞬間、秋の早い夕暮れとともに、17歳の少年の心は何とも表現し難い哀愁感にいとたやすく包み込まれてしまうのである」。

2007年私は馬齢を重ね51歳になった。今静かに往時を思いふり返れば、ただただ感謝のみである。恩師に級友に家族に社会に、そして私の周りのすべての人達に対してである。世界に例を見ないわが国の高度経済成長期真っ只中、昭和48年、17歳の少年であった私にとつても正に黄金の日々であった。

ファイアーストーム復活

についての活動

平成19年卒 大森 雄介

2005年度朝日祭で私達生徒会執行部は、朝日祭伝統行事であった「ファイアーストーム」を復活させることが出来ました。朝日祭で出たゴミを燃やす際に生じる煙などが近隣の方々にご迷惑になるということから、前年度は中止になっていたのです。しかし執行部が私達になり、ファイアーストームの存在を知った時、「朝日高校の伝統を失くしてしまつてはいけません。」との思いで、「ファイアーストーム復活活動」を行う事を決意しました。

まず初めに例年通りのやり方では実施することは不可能なので、「燃やす物の規模の縮小」「燃やす物を有害物質の出ない木材などに限定する」などの工夫点を話し合いました。そして次に近隣の方々のご理解を頂くために各町内会長の方に電話をし、「ファイアーストームを復活させたい」ということを、工夫点を踏まえて話をしました。しかし全ての方のご理解を頂くことは出来ず、これから復活に向けてどのように動いて行けば良いか分からなくなりました。そ

んな時、各町内会を取り仕切る方とお話をさせて頂き、相談したところ、理解して下さった上、様々な対応策を教えてくださいました。その後は町内会長の方々にもご協力いただき、また校長先生にも話をして、先生方のご協力も頂きました。私達の活動もそれから順調に進みました。当日の実施を人念に計画し、様々な人に準備を協力してもらいながら進め大成功させることが出来ました。

以上のようにファイアーストーム復活活動は周囲の様々な人の協力の上に成り立ちました。私達の考えを受け入れ協力してくださった町内会長の方々、実施に向けアドバイスを下された先生方、当日までの準備を手伝ってくださった校務技術員の方、部活動・委員会の人、そして忙しいにも関わらずそれぞれの役割を果たし共に活動してくれた執行部の仲間、本当に全ての人の感謝しています。

これからの朝日高校。旧校舍から新校舍に変わり、昔からの「伝統」というものが薄れていくかもしれせん。しかし「朝日の伝統」をいつまでも大切にしていき、そして「新たな伝統」をこれからの後輩達の手で作り上げてもらいたいと思います。

（背景写真は昭和25年のファイアーストームのものです）